

出演者



©Yuji Hori

渡辺 玲子 (ヴァイオリン)

第50回の日本音楽コンクールにおいて15歳という若さで優勝し、翌年、NHK交響楽団との共演で初めての舞台演奏を行った。1986年にはイタリアのパガニーニ国際コンクールで最高位を受賞。1985年からは、ニューヨークにあるジュリアード音楽院に留学し、1992年に学士と修士を取得した。現在は国内外の一流の指揮者やオーケストラと共演するなど、第一線で活躍を続けている。2004年からは秋田の国際教養大学にて音楽教育も行っている。2005年、第35回エクソン・モービル音楽奨励賞受賞。2018年9月ロシアのサンクト=ペテルブルクで行われた第2回ユーラシア国際女性会議において、社会に貢献した13人の女性の一人に選ばれた。

使用楽器は、日本音楽財団の保有する1736年製ガールネリ・デル・ジェス「ムンツ」。

<http://www.reikowatanabe.com>



©S.Yokoyama

渡辺さんの使用楽器について・・・

ガールネリ・デル・ジェス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」

約280年前、イタリア北部のクレモナにおいて、バルトロメオ・ジュゼッペ・ガールネリ（ガールネリ・デル・ジェス）（1698～1744）が製作したヴァイオリン。イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前が付いた。日本音楽財団はガールネリ・デル・ジェスの他、アントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）によって製作された弦楽器の名器を保有している。それらは国籍を問わず無償で演奏家に貸し出され、演奏活動に役立てられている。



©Rikimaru Hotta

江口 玲 (ピアノ)

東京芸術大学音楽学部作曲科を卒業後、ニューヨークのジュリアード音楽院にてピアノ科大学院修士課程を修了した。1992年、大成功を収めたニューヨークでの初舞台を始めとし、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの一流の舞台で演奏を続けている。国内外のラジオ、テレビへの出演も多く、日本においては、NHK、ニッポン放送、読売テレビ等に出演している。これまでパリ国際室内楽コンクールなど数々の国際コンクールで入賞し、また、演奏者としてだけでなく指導者としても権威ある賞を受賞している。2006年より洗足学園音楽大学大学院にて、また2011年より東京芸術大学にてプロを目指す学生の指導にあたっている。

<http://www.akiraeguchi.com>

青少年のためのレクチャーコンサート

音楽における愛のかたち

2018年 12月13日(木) 14:15～

北九州市立 響ホール

主催 北九州市、(公財)北九州市芸術文化振興財団、
日本音楽財団

助成 日本財団

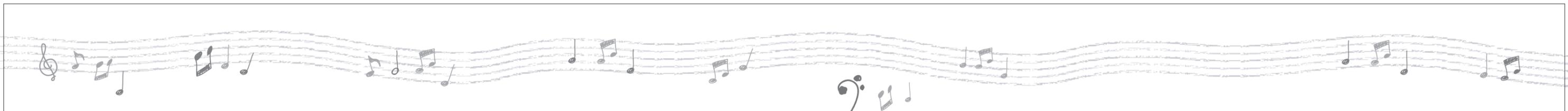
渡辺玲子(ヴァイオリン)

江口 玲(ピアノ)

プログラム構成 渡辺玲子

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION



曲目

♪ プログラムノート

♪ 母への愛

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756年～1791年）
ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K.304 第1楽章



◇ ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

モーツァルトはオーストリアの中心部のザルツブルクで生まれました。ザルツブルクの宮廷音楽家だった父親と共にヨーロッパ中を旅しながら一流の音楽を学びました。20代になったモーツァルトは、演奏のため母親と一緒に訪れていたフランスのパリで、突然母親が亡くなるという不幸に見舞われます。それとほぼ同時期に作曲されたこの曲には、モーツァルトの母親に対する様々な思いが込められているのかもしれませんが。

♪ 自然への愛

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770年～1827年）
**ヴァイオリン・ソナタ 第5番
ヘ長調 作品24「春」 第1楽章**



◇ ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ベートーヴェンはドイツの中西部のボンで生まれました。父親から厳しい音楽教育を受けていたベートーヴェンは、20代で音楽の都オーストリアのウィーンに移り住みました。それからしばらくして、ベートーヴェンは音楽家にとっては生命にも等しい聴覚を失ってしまいます。しかし、音楽への情熱をもって乗り越え、その後も傑作を生み出し続けました。ベートーヴェンはよく森を散歩しながら曲の構想を練ったと言われています。この曲を作曲した時、どんな風景を見て、何を感じていたのでしょうか。

♪ 妻への愛

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685年～1750年）
**無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番
二短調 BWV1004から「シャコンヌ」**



◇ ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

バッハはドイツのほぼ中心に位置するアイゼナハという都市で、音楽家の一族に生まれました。バッハは宗教音楽のほか様々な種類のすばらしい音楽を数多く残し、西洋音楽の基礎を築いた人です。「シャコンヌ」は当時流行していたダンスのための音楽です。バッハがこの曲を作曲する少し前に最初の妻を亡くしていることから、バッハは妻への愛と悲しみを込めて作曲したと言われています。

レオシュ・ヤナーチェク（1854年～1928年）
ヴァイオリン・ソナタ 第2楽章、第4楽章



◇ レオシュ・ヤナーチェク

ヤナーチェクは現在のチェコ東部の地方モラヴィアで生まれました。当時の主流であった西ヨーロッパの音楽をドイツのライプツィヒで学んだヤナーチェクは、故郷に戻ると、モラヴィアの民謡を基礎とする音楽を求めて作曲に励みました。ヤナーチェクは、音楽は話し言葉の抑揚から生まれると考え、モラヴィア民謡からヒントを得たメロディーによるチェコ独自の音楽を生み出し、世界的な水準へと高めたのです。

♪ 祖国への愛

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840年～1893年）
「懐かしい土地の思い出」作品42から「メロディー」



◇ ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

ロシアのウラル地方に生まれたチャイコフスキーは、両親の勧めによりサンクトペテルブルクの法律学校で学び、卒業後は法務省に入りました。音楽に出会い、のめり込んで行くのは20歳を過ぎてからのことです。チャイコフスキーはとても繊細な心の持ち主で、あらゆるか弱いものに愛情と共感を示したと言われています。そんなチャイコフスキーの書く美しいメロディーは、ひとりひとりに懐かしい土地の情景を思い起こさせてくれることでしょう。

フリッツ・クライスラー（1875年～1962年）
ウィーン奇想曲



◇ フリッツ・クライスラー

オーストリアのウィーンに生まれたクライスラーは、幼い頃からヴァイオリンを習い、早くも12歳でパリ音楽院を卒業しました。ヨーロッパ各地やアメリカでも演奏を行っており、この「ウィーン奇想曲」を作曲した頃は既にアメリカ人の女性と結婚して、ニューヨークで暮らしていました。「奇想曲」とは、自由で軽快な性格を持つ比較的短い曲をいいます。華やかな音楽の都として知られるウィーンですが、時々聴こえる悲し気なメロディーから、クライスラーが故郷ウィーンを懐かしんで書いたことが想像できます。

♪ ヴァイオリンが奏でる愛の世界

フリッツ・クライスラー（1875年～1962年）
愛の喜び 愛の悲しみ

3拍子のリズムを刻むダンスのための音楽、ワルツは、ウィーンでは独特なアクセントを持ったウィンナーワルツと呼ばれ、ウィーンの人々に親しまれています。そのワルツのリズムと明るいメロディーを合わせ持つ「愛の喜び」は、踊り出したくなるような、まさに愛の喜びにあふれた一曲です。一方、愛するがゆえの悲しみもまた愛の本質です。「愛の悲しみ」はゆっくりとした悲しいメロディーで始まり、やがて癒しと希望に変わります。そんな心の細やかな動きがヴァイオリンで見事に表現されています。

パブロ・デ・サラサーテ（1844年～1908年）
ツィゴイネルワイゼン



◇ パブロ・デ・サラサーテ

サラサーテは、スペイン北部のパンプローナという街で生まれました。ヴァイオリンの天才少年だったサラサーテは10歳でスペイン女王の前で演奏し、その後学んだパリ音楽院では13歳でヴァイオリン科の一等賞を得ました。「ツィゴイネルワイゼン」とは「ロマのメロディー」を意味します。ロマはインドに起源を持つ民族で、15世紀頃からヨーロッパ各地を放浪し、その過程でロマの音楽は西洋音楽に影響を与えるようになります。「ツィゴイネルワイゼン」は、ロマの感情とヴァイオリンの音色が見事に調和し、技術的にも難しく、独特で強烈な印象を放っています。